

報 告 書

件名 北海道/釧路市、帯広市、千歳市の先進事例行政視察報告書

日程 2018年 5月 7日(月)～ 5月 9日(水)

宛先 ふじみ野市議会議長 堀口修一様

写し

ふじみ野市役所 議会事務局

発行日 2019年 1月 28日

発行者 承認
公明党
島田 和泉

1. 視察日程

1) 日程

2018年 5月 7日(月) 15時00分から16時30分 釧路市
2018年 5月 8日(火) 10時00分から11時30分 帯広市
2018年 5月 9日(水) 10時00分から11時30分 千歳市

2. 視察先について

1) 釧路市

- ① 視察内容 生活困窮者自立支援制度及び支援プログラムについて
- ② 人口規模 174,742人
- ③ 面積 1362.90平方キロメートル
- ④ 市の特徴は、東北海道最大の人口を擁する拠点都市。北は国立公園、南は太平洋に面した自然豊かな地域、主産業の石炭や農林水産業などで発展し、国際観光都市へ向けたまちづくりに注力している。

2) 帯広市

- ① 視察内容 国際戦略総合特区の活用について
- ② 人口規模 169,327人
- ③ 面積 382.81平方キロメートル
- ④ 市の特徴は、十勝平野の中心地に位置し周囲は大雪山、日高山脈など豊かな自然に囲まれた地域。大規模な機械化畑作・酪農が主産業で大量生産能力を活用した加工品工場などを誘致し、国際総合戦略特区となり「フードバレーとかち」を推進している。

3) 千歳市

- ① 視察内容 千歳市防災学習交流センターについて
- ② 人口規模 95,442 人
- ③ 面積 594.50 平方キロメートル
- ④ 市の特徴は、札幌市、苫小牧市などに隣接し、年間乗降客数約 2,131 万人の新千歳空港や鉄道、高速道路などが集まる交通拠点都市。交通の利便性を背景に高度技術産業が立地する工業都市でもある。

3. 視察内容の報告

1) 釧路市

自立支援すべき人と高齢者を立て分けた体制づくりは、支援する側にとっても有益だと思われれます。

生活困窮者対策としての就労支援は、支援される側にいかに意欲を持ってもらうかが重要。そのための様々な個別プログラムはとても参考になりました。

自立支援に関わる事業も、自立相談、労働意欲があれば住居確保の支援、就労経験が乏しい方には就労準備事業、一時的な生活支援など生活困窮者の多様なニーズに応える事業を行い、早期の自立に向けた支援活動を展開している点は勉強になりました。

まずは相談窓口が身近にあることが必要と考えます。

2) 帯広市

帯広市は、十勝管内 19 市町村を束ねるリーダーシップを発揮していると感じました。広大な地域と農業資源を踏まえての様々な事業展開は、わが市、わが地域とは比較にならないものですが、地域の資源を広域でとらえ直すことで新たな地域おこしの可能性が見えてくると実感しました。

地域特性をどのように生かすべきかに注力し、国際戦略総合特区など国の制度を最大限に活用することで、農作物や酪農生産品を地域生産品にとどめず、加工事業者の誘致によって新たな事業としての効果を出せる仕組みづくりをし、地域ブランド品としての付加価値を創出した事業手腕は特筆されるべきことであろうと考えます。

最終的にはいかに人材を輩出していけるか、特に若い経営者の育成を目的とする取組は本市にとっても重要なことです。

3) 千歳市

見学させていただいた防災学習交流センターは、実践的な体験学習が行える施設となっていました。実際の災害発生時における問題点を明確にするため煙の充満する部屋や、地震体験などを体験できる施設が身近にあることは児童の学習機会や自治組織の体験学習など様々なニーズに応えることが出来ることから貴重な施設であると感じました。

行政の取組としても、市民の防災意識向上をテーマとして3つの施策を実施されているとのこと。1つ目は自主防災組織の育成で町内会を対象とした出前講座を実施し、地域ごとの防災マップ作成や防災用資機材を供与するなどし、組織率の向上や防災リーダーの育成を図るそうです。2つ目は児童生徒の防災意識向上として、小中学生を対象とした防災教育を(総合学習時間の活用)実施し、校区内の防災マップなどを作成します。3つ目は防災ボランティアとの連携を掲げられ、千歳市社会福祉協議会と連携した防災ボランティア育成の事業化を支援するそうです。

自助・共助の啓発を目的に、自治組織等による防災訓練や講座・イベントにも力を入れているということ、どこまで市民一人一人に防災の意識を啓発していけるかが本市との共通の課題であると感じました。

以上。